

【担当教員】

松田 真希子

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報棟203

【授業目的及び達成目標】

研究室で活動するために必要なアカデミックジャパニーズについて勉強します

【授業キーワード】

academic Japanese, vocabulary building, engineering term

【授業内容及び授業方法】

毎回一つのトピックについて必要な用語や表現について簡単な日本語で学びます
漢字の勉強もします

【授業項目】

laboratory
mathematics
physics
material science
IT
experiment
paper

【教科書】

教員が資料を用意します

【成績の評価方法と評価項目】

試験をします

【留意事項】

次の人が授業をうけることができます。
・日本語研修コース修了生
・Basic Japanese Course 3 が終わっている人
・日本語能力試験3級に合格している人

【担当教員】

加納 満

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報1号棟505室
#505, Management & Information Systems Science Building, ext.9802

【授業目的及び達成目標】

初級修了者を対象に中級入門レベルの総合的な日本語能力の養成を図る。

【授業キーワード】

話す力、聴く力、語彙力、音変化、話しことば

【授業内容及び授業方法】

授業において以下の項目について練習を行うことで、中級入門レベルの日本語能力の養成を図る。

1. ペアによるスピーチと質疑応答練習
2. 各週の課題に関わる話しことばの文法項目、音変化、語彙強化の練習

【授業項目】

- 第1週 ガイダンス、レベルチェック
- 第2～3週 スピーチ、「貸してもらおう」
- 第4～5週 スピーチ、「予定を変更する」
- 第6～7週 スピーチ、「注文する」
- 第8～9週 スピーチ、「買い物」
- 第10週 スピーチ、「アルバイトを探す」
- 第11週 スピーチ、「ほめられて」
- 第12週 スピーチ、「交通手段」
- 第13週 スピーチ、「ゆずります」
- 第14週 スピーチ、「マンション」
- 第15週 期末試験

【教科書】

「日本語生中継・初中級編1」スリーエーネットワーク

【参考書】

なし。

【成績の評価方法と評価項目】

課題点40%と期末試験60%で評価する。

【留意事項】

日本語初級修了者を対象とする。

【担当教員】

柴崎 秀子

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報棟508
TEL 0258-47-9856

【授業目的及び達成目標】

日本語による講義の理解に不自由のない日本語力を養成する。
日本能力試験2級合格のレベルに達することを目的とする。

【授業キーワード】

日本語中上級レベル

【授業内容及び授業方法】

毎回、漢字と語彙に関する宿題が出る。
授業は講義式のほか、学生による発表もある。
宿題の確認後、教科書を使って読解と文法を行う。

【授業項目】

1. 漢字の読み・書き
2. 語彙の積み上げ
3. 文章理解

【教科書】

大学・大学院留学生の日本語(1) 読解編
(必ず購入すること。)

【参考書】

授業の中で指定する。

【成績の評価方法と評価項目】

出席、宿題提出状況、期末試験。

【留意事項】

日本語特論2を履修する者は、同時に日本語特論1を履修することはできない。
欠席、遅刻は減点の対象となる。

【参照ホームページアドレス】

http://
なし

【担当教員】

柴崎 秀子

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報棟508
TEL 0258-47-9856

【授業目的及び達成目標】

日本語による講義の理解に不自由のない日本語力を養成する。
日本能力試験2級合格のレベルに達することを目的とする。

【授業キーワード】

日本語中上級レベル

【授業内容及び授業方法】

毎回、漢字と語彙に関する宿題が出る。
授業は講義式のほか、学生による発表もある。
宿題の確認後、教科書を使って読解と文法を行う。

【授業項目】

1. 漢字の読み・書き
2. 語彙の積み上げ
3. 文章理解

【教科書】

大学・大学院留学生の日本語(1) 読解編
(必ず購入すること。)

【参考書】

授業の中で指定する。

【成績の評価方法と評価項目】

出席、宿題提出状況、期末試験。

【留意事項】

日本語特論2を履修する者は、同時に日本語特論1を履修することはできない。
欠席、遅刻は減点の対象となる。

【参照ホームページアドレス】

http://
なし

【担当教員】

柴崎 秀子

【教員室または連絡先】

経営情報1号棟508

【授業目的及び達成目標】

日本語能力試験2級合格を到達目標とする

【授業キーワード】

中上級、読解、漢字、文法、語彙

【授業内容及び授業方法】

毎回、語彙及び文法の宿題あり。特別な理由がない限り、15分以上遅刻した場合、出席を認めない。

【授業項目】

1. 宿題の提出
2. 小テスト
3. 読解問題

【教科書】

「完全マスター2級 日本語能力試験文法問題意対策」スリーエーネットワーク1260円を必ず購入すること。(著作権法上、コピーは許可されない。同じような名まえの教科書があるので注意)

【成績の評価方法と評価項目】

期末試験50%、その他宿題、出席率、小テストの成績で50%

【留意事項】

この科目を履修する者は日本語特論I・IIを履修することはできない。

【担当教員】

加納 満

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報1号棟505室
#505, Management & Information Systems Science Building, ext.9802

【授業目的及び達成目標】

中級後半レベルの話す・聞く能力の養成を目的とする。

【授業キーワード】

記述説明能力、話す力、聴く力、語彙力

【授業内容及び授業方法】

各週の課題に関わる話しことばの文法項目、音変化、語彙強化の練習を、ペアとグループによる教室活動により行い、各週の課題を達成していく。

【授業項目】

第1週 ガイダンス、レベルチェック
第2～3週 伝言
第4～5週 勧誘
第6～7週 許可
第8～9週 確かな／不確かな情報
第10～11週 依頼・指示
第12～13週 文句
第14週 提案
第15週 期末試験

【教科書】

「聞いて覚える話し方日本語生中継」くろしお出版

【参考書】

なし。

【成績の評価方法と評価項目】

課題点40%、期末試験60%の割合で成績評価を行う。

【留意事項】

この科目を履修する者は日本語特論科目1と2を同時に履修できない。

【担当教員】

飯塚 尚子

【授業目的及び達成目標】

新聞、ニュース記事の読解力、および記事をもとにした議論、発表能力を養うことを目的とする。新聞やニュースには独特のスタイル、語彙、表現が使われており、それを理解しないことには記事全体の理解は難しい。このクラスでは、そのような語彙、表現をニュースの分野ごとに学びつつ、同時に日本事情、日本社会についても共に考えていきたい。さらに、講義で学んだ語彙、表現を練習することによって定着を目指したい。「読解」を受身作業としてとらえずに、自ら積極的に働きかけ、考え、発信していくことを期待したい。

【授業キーワード】

記述説明能力、読解能力、語彙力、発表能力

【授業内容及び授業方法】

出席を重視するとともに、授業への積極的な参加を求める。なお、進度については受講生の人数、レベルによって変わることもあるが、原則として2週で1つの記事を扱う。1週目は主に読解を、2週目は語彙、表現の運用練習を行う。テキストの内容に関連した時事問題も別に取り上げる予定。

【授業項目】

- 1 授業計画について。イントロダクション(新聞の基礎知識)
- 2-3 新聞記事1 気象3、期末試験(1回)
- 4-5 新聞記事2 自然災害
- 6-7 新聞記事3 事故
- 8-9 新聞記事4 トラブル・不祥事
- 10-11 新聞記事5 社会問題
- 12-13 新聞記事6 新製品の紹介
- 14 新聞記事7 時事問題を扱う予定
- 15 期末試験

【教科書】

授業時に資料を配布する予定。

【参考書】

ニュースで増やす上級への語彙・表現 木山三佳著 アルク(2007)

【成績の評価方法と評価項目】

平常点40%、期末試験60%の割合で成績評価を行う。

【留意事項】

この科目を履修する者は日本語特論1～3を同時に履修できない。

【担当教員】

飯塚 尚子

【授業目的及び達成目標】

新聞、ニュース記事の読解力、および記事をもとにした議論、発表能力を養うことを目的とする。また、発表に先立って、自分の考えをレポートとしてまとめる能力も身につけたい。新聞やニュースには独特のスタイル、語彙、表現が使われており、それを理解しないことには記事全体の理解は難しい。このクラスでは、そのような語彙、表現をニュースの分野ごとに学びつつ、同時に日本事情、日本社会についても共に考えていきたい。さらに、講義で学んだ語彙、表現を練習することによって定着を目指したい。「読解」を受身作業としてとらずに、自ら積極的に働きかけ、考え、発信していくことを期待したい。

【授業キーワード】

記述説明能力、読解能力、語彙力、発表能力、文章表現能力

【授業内容及び授業方法】

出席を重視するとともに、授業への積極的な参加を求める。なお、進捗については受講生の人数、レベルによって変わることもあるが、原則として2週で1つの記事を扱う。1週目は主に読解を、2週目は語彙、表現の運用練習を行う。テキストの内容に関連した時事問題も別に取り上げる予定。

【授業項目】

- 1 授業計画について。イントロダクション(新聞の基礎知識)
- 2-3 新聞記事1 調査記事
- 4-5 新聞記事2 行政報告
- 6-7 新聞記事3 訴訟・裁判
- 8-9 新聞記事4 スポーツ
- 10-11 新聞記事5 政治
- 12-13 新聞記事6 外交
- 14 新聞記事7 時事問題を扱う予定
- 15 期末試験

【教科書】

授業時に資料を配布する予定。

【参考書】

ニュースで増やす上級への語彙・表現 木山三佳著 アルク(2007)

【成績の評価方法と評価項目】

平常点40%、期末試験60%の割合で成績評価を行う。

【留意事項】

この科目を履修する者は日本語特論1～3を同時に履修できない。

【担当教員】

加納 満

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報1号棟505室
#505, Management & Information Systems Science Building, ext.9802

【授業目的及び達成目標】

- 1) 日本の政治・社会・経済・文化に関する話題や日本と外国に関わる様々な問題に関して理解を深める。
- 2) 客観的分析力・論理的思考力、相手の意見を聞く能力、討論能力、文章作成能力の向上を養成する。

【授業キーワード】

討論能力、分析能力、文章作成

【授業内容及び授業方法】

授業ごとに新聞記事を資料に取り上げ、その資料をペアまたはグループで、音読作業、意味の確認、課題作業、討論を行った後、個人レポートを作成し、提出する。

【授業項目】

1. ガイダンス(1回)
2. 資料分析と討論(13回)
音読、意味の確認、課題作業、討論、レポート作成
3. 期末試験(1回)

【教科書】

資料を配布する。

【参考書】

なし。

【成績の評価方法と評価項目】

課題50%、期末試験50%の割合で成績を評価する。

【留意事項】

この科目を履修する者は日本語特論科目1～3を同時に履修できない。

【担当教員】

松田 真希子

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報系1号棟203室(内線9851)
メールアドレス:matsuda@vos.nagaokaut.ac.jp

【授業目的及び達成目標】

日本の地域社会と日本人を理解するための教養を養う。

【授業キーワード】

日本社会、日本人、異文化比較、ディスカッション、課題解決型

【授業内容及び授業方法】

教員が用意したトピックの中で学生によって選ばれたトピックに関して
教員が情報(文字資料、映像資料等)を提供した上で、ディスカッションを行う。
最終的には一つのトピックに関して具体的な提案をまとめ、レポートで提出する。

【授業項目】

第一回 「ここが変だよ 日本と日本人」

第二回以降

情報提供とディスカッション
(トピック例)

- ・なぜ外国人に選挙権がないのか
- ・過疎化を止めるにはどうすればいいのか
- ・なぜ独居老人が増えるのか
- ・なぜ少子化がとまらないのか
- ・日本の戸籍と結婚
- ・公共事業を考える
- ・外国人が住みやすい街づくりとは
- ・孤立と自殺
- ・敬語は必要か
- ・外国人が旅行したくなる国とは
- ・世界的な環境問題への具体的な提言
- ・徴兵制は必要か

【教科書】

教員が教材を用意する。

【成績の評価方法と評価項目】

毎回の小レポート 20%

最終レポート 80%

【留意事項】

日本事情特論1を受講する者は日本語特論1, 2, 3, 4を受講することはできない